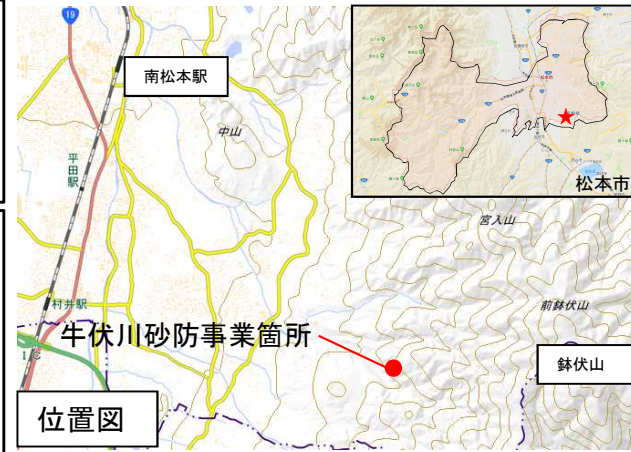


# 松本砂防スペシャルエンジニア・松本砂防事務所現地検討会実施しました

実施日時: 12月10日(月) 13:15~16:00  
調査箇所: 牛伏川の砂防事業(完成から約100年)  
参加機関: MSSE(松本砂防スペシャルエンジニア)、松本砂防事務所  
合計25名



松本砂防事務所では、内務省時代施工した牛伏川の砂防事業で先人が築いた伝統技術である「石積」の施工方法や構造等について、砂防の経験が豊富で松本砂防事務所管内にも詳しいMSSE(松本砂防スペシャルエンジニア)と現地を確認し、意見交換をおこないました。  
当時施工された石積による堰堤は、洪水時に石があたり角がかかるのを防ぐため、施設の角に丸みをもたせる工法(巻天端)や石と石との噛み合わせ・組み合わせが堰堤の強度に影響するため、時間をかけて石の積み方を考慮するなど多くの工夫と労力が結集されています。完成から約100年経った今もその効果を十分に果たしており、先人たちの技術に驚きました。現地検討会で学んだことを今後の施工方法に役立てたいと思います。



第一号石堰堤(内務省 明治18~19年施工)

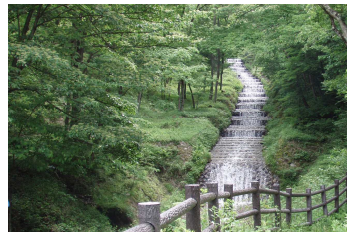
石積み技術について解説を受ける様子

第三号石堰堤(内務省 明治18年施工)

## トピック ~牛伏川の砂防事業とは?~

明治初頭、牛伏川の水源地は、森林伐採と山火事により荒廃地となり、降雨の度に土石流が発生していました。そのため、明治18年(1885)内務省により牛伏川の砂防事業が始められ、その後明治31年(1898)長野県が砂防工事を引き継ぎ、現在の牛伏川階段工をはじめとする砂防施設が完成しました。

石積による施工方法、水の流れて沿って創る伝統工法等により自然との調和を図り美しい景観を創り出し、先人の技術を学ぶ砂防学習の場、また、市民のいこいの場として多くの方に現在も利用されています。



重要文化財 牛伏川階段工

牛伏川階段工竣工写真